

## 吟遊詩人

出会いからやつとここまで白躑躅

たんぽぽの絮日輪の飛沫飛ぶ

河骨や二階の人へ往復す

わたくしはいいいわたくし蚩袋

夕映えの水仙ほんのり熱の予感  
さつき通った自転車に戻る冬菜畑  
うつ伏せて書くことも雨の芍薬

「汚い」って零れしシユガー晩夏かな

新たな画布に若葉塗り止まず憂し

文字摺草もじずりや朝の視線のくすぐつたい

病葉を本の葉に酒あまし

夏カラス吟遊詩人のしゃくりです

禿頭にのる夏帽子テーマパーク

考えるヒントが欲しい糸瓜棚

一輪の晩夏のバラと焼酎と

置き去りにされたるころ山椒魚

眼疾のひっそりしたる白式部

ゼラチンのゆるき凝固や冬構え

### 梅ジャム

裏側は激しい戦闘ポインセチア

白黒の証明写真冬椿

雑炊をすする時マングローブの森

透けてゆくことが抵抗白菜煮て

秒針の音なくすべる秋の風

アネモネや消えしアンネのまあるい瞳<sup>め</sup>

停止線さつとアジアの天然水

ヘッ竜馬 男もすなる紅三極

とうがらし好きそうな人煙りをり

春愁のやわらかい穴探すかな

試供品顔に置いてる毛虫かな

草稿を塩漬けにして花氷

我が家の、ささやかな庭の主木は、古木の梅の木です。二月、その梅の木に一輪、二輪の花が咲き出す時、明るくなった如月の日差しとともに、春の息吹がして、気持ちがあわくわくします。満開に咲きますと、雨戸を繰るときなど、兜太先生の「梅咲いて庭中に青鯨が来ている」という句がふつと出て、うぐんと唸るのです。梅雨に入るころ、この梅の木には、肉厚の上等な青梅が生ります。年によって、生る量は違いますが、多いと二十キロほど生ります。数年前から、そのほとんどを梅ジャムにしています。二度湯でこぼし、種を取り、フードプロセッサーにかけ、グラニュー糖を入れ、煮詰めて出来上がりです。おいしいと言ってください。寝苦しかった夏の朝、トーストしたパンに梅ジャムを付けて頂くと、さっぱりとおいしい。ジャンピングした紅茶とともに、それは、ステキな夏の朝、一日の始まりです。